

長畝ふるさと通信



【2025年8月号】

■ 恵の雨、しかし・・・

8月5日、恵みの雨が降りました。6月25日以来何と40日ぶりの雨です。コシヒカリ出穂前のこのタイミングは正に「恵みの雨」でした(佐渡の南部では豪雨による土砂災害が発生し、大変な被害がありましたけど・・・)。おかげさまで8月末現在の稲姿は良好です。全国的な水不足などで新米の収穫量に不安があることや、JAを通さない民間業者とのコメ集荷競争が影響して、どの産地でもJA概算金は昨年の約1.6倍もの高値が付いています。JA佐渡では28日にトキ認証コシヒカリは1俵 30,500 円が決定され、我々生産者も驚きを隠せません。



コメの相場が上がることは生産者にとっては大変ありがたいことですが、この相場では末端の小売価格が5kgで5,000円もすることとなり、大勢の消費者に支持されるとは思えません。JA全農にいがたはこの概算金決定の理由として「高温や水不足による収穫量が懸念される中でも、確実に集荷を進め、コメを安定的に消費者に供給するため」だとしていますが、要は「これまで築いてきたコメ業界のシェアを民間に奪われてなるものか！」という対抗意識の表れではないでしょうか。我々生産者はこれほどの高値を望んではおらず、むしろ消費者離れを恐れています。このままでは銘柄米は支持されず、アメリカからの輸入米などがシェアを広げてしまう恐れもあります。

コメの適正価格を壊しているのは一体誰でしょう。

■ お米屋さんの現地視察交流会

毎年8月末に長畝のおコメを取り扱ってくださっているお米屋さんを佐渡にお招きして、交流会を開催しています。今回は関東・関西・中部・沖縄・新潟と全国から10業者が参加してくれました。コメ騒動の中、どのお米屋さんも大変な苦労をされたようです。顧客からは「コメが高い」と文句を言われ、同業者が次々に廃業してしまい、そのフォローもままならない状況だったとか……。国の政策に翻弄され右往左往したと思えば、令和7年産米も更に相場が高騰する異常事態に疲労困憊。今後の取引についてもこれまでにない深い協議となりました。毎日食べるおコメをいかに消費者に安心して買って食べてもらうか、この一点に尽きます。



■ 80回目の慰霊祭



8月15日、戦後80回目の戦没者慰霊祭が新穂地区の日吉神社で執り行われました。ボクも遺族会の役員になって10年余り、年を追うごとに会員数が減り、慰霊祭の参列者数も激減してしまいました。佐渡では各地区にある遺族会が高齢化により次々に閉会し、15日に慰霊祭を執り行う地区はとうとう新穂地区だけになってしまいました。戦争により尊い命を捧げた英霊に対する供養の気持ちはあっても、組織が継続できない残念

な状況です。世界各地で悲惨な戦火が繰り返し起きている中、我が国もいつまで平和でいられるのか……平和ボケした国民には想像すらできない事ですよ。

■ 令和7年産もご愛顧ください

7年産米の予約案内を同封いたします。価格についてはJAの概算金をベースに運賃を加算した金額で設定させていただきました。昨年から比べるとかなりの値上げとなってしまうりましたが、何卒ご理解いただきます様、お願い致します。

1年間安心して美味しいおコメを食べて頂けるよう頑張っています。

